

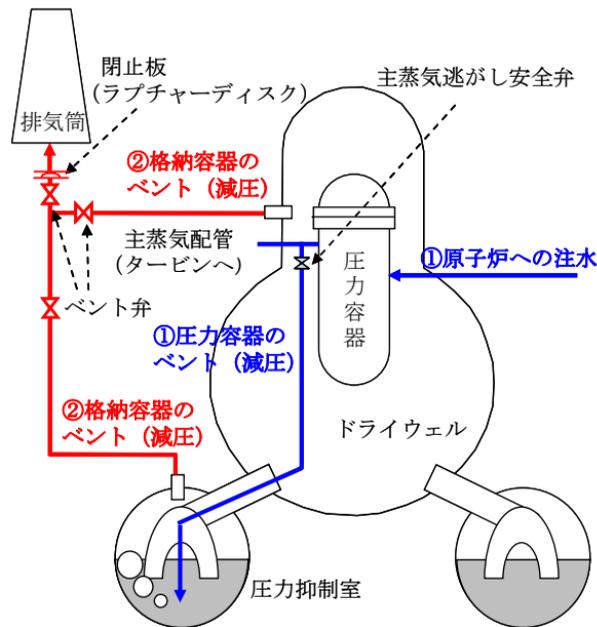
参 考

①原子炉への注水と圧力容器のベント（減圧）

- 運転時の原子炉圧力は約7MPaと高い。
- 一方、原子炉内（圧力容器内）の燃料は、運転を停止しても崩壊熱が発生するため、冷却が必要。
- このため、事故当初は、高い圧力で原子炉へ水を入れることができる設備で注水・冷却する。（高压注水）
- 原子炉の圧力を大気圧程度まで下げることができれば、低い圧力で原子炉へ水を入れることができる設備で注水・冷却する。（低压注水）
- なお、低压での注水が可能となるよう、圧力容器の圧力を減圧する配管を設置。この配管は主蒸気逃がし安全弁を開閉することで圧力容器の蒸気を圧力抑制室へ導く。

②格納容器のベント（減圧）

- 格納容器が破損した場合、放射性物質の放出をコントロールできない状態となり被害が拡大するおそれがある。このような事態を避けるため、格納容器内の気体を大気放出（ベント）することで圧力を減圧するための配管を設置。
- この配管は、圧力抑制室からの配管とドライウエルからの配管を有する。
- 圧力抑制室からの配管を用いると水により放射性物質を減少させることができるため、基本的には当該配管を用いてベントを行う。
- なお、いずれの配管も、配管途中にある弁を開けた上で、閉止板が一定圧力以上で破けると排気筒から気体が放出される。



格納容器：ドライウエルと圧力抑制室をあわせた部分